

第7回東村山駅西口公益施設運営検討会

日時:平成19年3月26日(月)第2委員会室 午後7時30～

出席者:委員10名(欠席5名)

議題

1)会議の運営について

午後7時～7時30分 いきいきプラザの視察を実施

第6回東村山駅西口公益施設運営検討会議事録の確認ほか  
資料確認(事務局)

・報告(野島課長)

公益施設の買取が本議会で可決され、再開発組合と協定書を交わしてある。  
「さんぶの森 元気館」の視察は千葉県にあり少々時間を要する。

・本日は公開会議とする。

傍聴者2名

2)市内施設の視察について質疑と公益施設の検討

【事務局】公益施設と既存施設との面積比較について説明

【委員】

・運動指導室の面積はどのくらいか。

(小児の健診等の概要について)

・地区別、年齢別などで健診日を設定しているのか

年齢別、地区別には分けていない。年間で区切りをつけ分けている。

・来られない理由は

基本的に希望者。年齢が低いほど受診率が高い。最初の3～4ヶ月健診は96%、  
きていない数%のこられない理由について興味がある。

・健診の時間は 1時間半程度。

・今の親は子育てが上手くできない。親同士で話し合いができるような出会いの場があればいい。

・同年齢のお母さんとは違う人(子育て経験のあるおばあちゃんなど)と子供を触れさせる場所と時間があつたらいいのではないか。

・ファミリーサポートセンターがそれにあたるのでは

異世代交流、先輩ママを呼ぼうということで、子育て経験者を呼んでお話を伺うこともある。おばあちゃんと子供の接点については、子育ての分野で必要であるとの意見が出ており、今後変わってくるのではないか。

・子供を皆なで見るのが大事、健康は食べること話すことも必要、これらをサポートするマンパワー(ボランティア、専門者のこだわらない)が必要である。

【委員】交流にも様々な形がある。これらをどう公益施設に取り入れていくか。

【委員】ベビーカーの置く場所を設定する予定はあるか。

具体的にはない。今後の検討課題である。

【委員】公益施設スタジオ A・B の靴を脱ぐ場合のスペースはあるか。

一応考えてあるが、土足と上足のゾーニングは今後の検討課題である。

【委員】スポセンのトレーニングルームとスタジオは同じくらいの広さか

スポーツセンターはかなり広い。スポーツセンターは運動専門施設、駅で降り簡単に利用できるという考え方がどう取り入れられるか。

【委員】スポーツセンターの運動機具の利用状況は、年齢別など。

機械類の利用状況については、どういう機械が人気があるかなどトレーナに確認する。数量的な把握はしていないのでは。可能であれば所管に聞いて次回までにお知らせする。

・年齢層などを知ることが会社帰りに使用するなどの参考になると思う。

【委員】公民館の4階のレクルームでの活動は。

サークルが主に使っている。音楽活動で使用している。レクルーム、視聴覚室、地下の部屋も使用している。

スポーツセンターでも社交ダンスをやっている。

【委員】スポーツセンターでのマシンの利用は各マシンを満遍なく使っている。

【委員】運動時には有酸素系でウォームアップして、それからマシンになる、マシンは基本的に動作、筋肉で満遍なく使うが一番混むのは有酸素系の機械、時間が長くなる。傷みも激しい。もう一つ民間のスポーツクラブは駅前型と住宅地型がある。そこでの客層は違う、住宅型は固定層があり、一般的に年齢も高い、平均利用率も高く安定する。駅前型は若い層が多く出入りが多い、同じような機能を持たしてもターゲットが変わってくるので、変えてやる戦略を持たないと駅前の特性が生きない。また、スポーツ施設は10倍くらい増えているが、つぶれてもいる。スポーツ人口は変わっていない。今アメリカでも日本でも同じで、定期的に週1回以上運動をしている人は限定的である。ソフトでは動かない。どのような人が利用するかなどの努力の幅はあるが動かない幅もあることを知っておく必要がある。その他のコミュニケーションなどのテーマでは利用される方は出てくると思う。

【委員】世間でメタボリックシンドロームの情報が氾濫しているが、そういった面で健康増進施設の利用がこれから増えるのではないか。

増やさないといけない。健診の事後指導の問題もあり、どうにかしないければいけないことが現状の課題である。

【会長】体力創りで富士見町には八つのサークルがある。それぞれ20人程度の部員がいるが、毎年勧誘活動をおこなっているが、若い人が入らず固定した人がやっている。そんな傾向がどこの町でもあるのではないか。

地域では、後から入りにくい雰囲気がある。駅前では、流動性があるということで可能性がある。定着性は疑問だが、上の住宅棟などの新しい層が入ってくると思う。

【委員】13町体力づくりベースを子育てのファミリーサポートなどに置き換えられない

か、地区ごとに核になる人を位置付けるようにしていくといいのではないか。

保健推進員委員はメタボ対策などを行っているが、スポーツ施設でやっていない。屋内でできればいい。今後協議してよい方向をだしたい。

【会長】高齢化している。民生委員を終えた人がやっているケースが多い。

自治会が核となっている。体力づくりのメンバーも入っている。市内で300名いる。

・ 推進委員は300名だが、そこに一般の人が入ってくるのか  
そのとおり。

【事務局】施設の機能別表が必要とのことで、一覧表を資料として用意した。市民センターは貸館事業だが、比較検討ができるということでリストアップした。民間施設のロンドスポーツセンターを載せてある。市民のしおりのなかに公共施設のマップも添付してある。参考にしていただきたい。

【事務局】「さんぶの森 元気館」を視察予定施設として提案。説明(事務局:別紙資料参照)

【委員】施設の使用定期券があるということだが

1回利用と定期利用があり、利用料金制となっている。

各種測定なども行っており、健康増進に先進的取り組みをしていると聞いている。

【委員】公設か民設か。

公設である。

【委員】運動の習慣化と定着率において1回使用では効率的だが、定期券を買うともったいないから来るということもあり、定着率に影響すると思う。測定に関してはスポーツセンターでも行っておりノウハウはもっている。

【会長】視察を行なうこととしたい。手続き等は事務局にお願いします。

【委員】承認

(まとめ)

・市内関連施設の視察後の質疑

・先進施設の視察先は、「さんぶの森 元気館」に決定

次回 4月19日(木)さんぶの森 元気館視察

4月23日(月)午後7時00分～ 第2委員会室にて

(添付資料)

第7回東村山駅西口公益施設運営検討会次第

施設機能比較表

いきいきプラザ視察資料

ロンドスポーツの概要

さんぶの森 元気館の概要

施設面積比較表